

開催概要

中央労働災害防止協会では、SHAWPAT(タイ労働安全衛生促進協会)の協力および在タイ日本国大使館等の後援のもと、タイにおける日系企業の安全衛生活動の支援を中心に、作業員への安全衛生意識の向上や、安全衛生担当者同士のネットワークの構築と、近年、国際的に要請が高まる「ビジネスと人権」等、グローバルな安全衛生に関する情報の還流を目的としバンコクにて安全大会を開催しました。

なお、本大会を開催するにあたり厚生労働省から多大なる協力をいただき、中央労働災害防止協会の補助事業の一環として実施しました。

1. 名称

第1回タイ日系企業安全大会(日本公式名称)

1st Thailand-Japan Work Safety Days(タイ公式名称)

2. 会期

令和7年12月18日(木)～19日(金)(2日間)

・12月18日(木) 8時45分～16時35分(開場8時～、開会式8時50分～)

(※オプションのネットワーク交流会 17時～19時)

・12月19日(金) 8時45分～16時35分

3. 会場

SD Avenue ホテル

(94 Borommaratchachonnani Rd, Bang Bumru, Bang Phlat, Bangkok 10700 タイ)

※オンライン配信…ライブでの配信(タイ語と日本語の2ch)

4. 主催

中央労働災害防止協会

5. 協力

SHAWPAT(タイ労働安全衛生促進協会)

6. 後援

在タイ日本国大使館、T-OSH(タイ労働安全衛生環境推進機構)

タマサート大学公衆衛生学部、公益財団法人東京都中小企業振興公社

地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター

7. 大会テーマ

(日本語) 共に学び、共に築こう、日タイ両国の安全衛生の連携とシナジー

(英語) Beyond borders – OSH Synergy between Thailand and Japan

8. 参加対象者

タイにおける日系企業の産業安全、労働衛生の関係者、日本の親会社等

9. 参加者数(定員 300 人)

現地参加者 317 名、オンライン参加者 68 名

※内訳は 14.「参加者数内訳」参照

10. 参加費

(現地参加)

日本からの申込:14000 円 ネットワーク交流会オプション 4000 円

タイでの申込:4000THB 交流会費用込み (いずれも現地の税を含む)

(オンライン参加)

日本からの申込:7000 円

タイでの申込:2000THB (いずれも現地の税を含む)

11. 併催

タイ・日本安全衛生保護具等展示会(出展企業数:17 社)

12. 日本開催事務局

中央労働災害防止協会 技術支援部 国際課

(住所:東京都港区芝 5-35-2 安全衛生総合会館 6 階)

電話 03-3452-6297 メール tjwsd@jisha.or.jp

13. プログラム

※開会式の来賓については、以下のとおり変更があった。

在タイ日本国大使館

(変更前) 大使 大鷹 正人 様

(変更後) 次席公使 西岡 達史 様

タイ労働省 労働保護福祉局(DPLW)

(変更前) 局長 Saroch Khomkhai 様

(変更後) 監察総監 Suwadee Thaweek 様

タイ労働安全衛生環境推進機構(T-OSH)

(変更前) 理事長 Nuntachai Panyasuraidhi 様

(変更後) 副理事長(学術) Bancha Srithanauthaikorn 様

開会式プログラム

12月18日(木) 8:50~9:30

会場:3階 Amarin Hall

- | | |
|-----------|---|
| 8:00~ | 開場(受付) |
| 8:45~8:50 | 避難誘導ビデオの上映 |
| 8:50~8:55 | シリキット王太后へ黙とう(全員起立) |
| | 開会宣言 |
| | タイ労働安全衛生促進協会(SHAWPAT)
理事長 Prasopchai Yuvaves |
| 8:55~9:05 | アトラクション(和太鼓による演奏) |
| 9:05~9:30 | 開会式 |

開会の辞 中央労働災害防止協会 理事長 竹越 徹

来賓の辞 在タイ日本国大使館 大使 大鷹 正人 様

来賓の辞 タイ労働省 労働保護福祉局(DPLW) 局長
Saroach Khomkhai様

来賓の辞 タイ労働安全衛生環境推進機構(T-OSH) 理事長
Nuntachai Panyasurariddhi 様

来賓 厚生労働省 大臣官房 国際労働交渉官 奥村 英輝 様

来賓 ILO(国際労働機関) アジア太平洋地域総局
Chief Technical Advisor and Overall Coordinator 武部 憲和 様

来賓 ジェトロ・バンコク事務所 所長 阿部 一郎 様

1日目【12月18日(木)】スケジュール及び発表概要



基調講演①

9:35～10:20

「企業の安全管理 事故から学ぶリスクマネジメント」

横浜国立大学 総合学術高等研究院

上席特別教授 / 学長特任補佐 / 名誉教授 三宅 淳巳 氏

社会情勢が劇的に変化し先行きが見通せない現在、企業は多岐にわたる安全管理が不可欠である。また、一度重大事故や災害が発生するとその影響は当該の組織のみならず地域社会や市民生活にも及ぶため、組織の強み、弱みを適切に分析するとともに、万一の事態に備えたシナリオ想定と予防ならびに減災に向けた十分な事前評価と対策が必須である。本講演では、過去の事故事例から得られた教訓を基に、組織のリスクマネジメントならびに安全文化醸成のための基本的考え方について紹介する。

----- コーヒーブレイク -----
(10:20～10:45)



基調講演②

10:45～11:30

「ナノテクノロジーと先端材料による労働安全衛生」

スラナリー工科大学 公衆衛生学術院 助教

Dr. Kiattisak Batsungnoen



ナノテクノロジーと先端材料は、建設と環境工学に大きな利益をもたらしている。例えば、光触媒セメントには、大気汚染物質を分解し、都市のスモッグを減少させる二酸化チタンナノ粒子が組み込まれている。しかし、これらのナノ粒子は、微粒子を吸入すると呼吸器系や全身に影響を及ぼす可能性があるため、製造、塗布、解体の段階で労働衛生上のリスクをもたらす可能性がある。同様に、ディーゼル燃焼は、炭素質粒子や金属含有粒子を含む超微細ナノ粒子の主要な発生源であり、これらは発がん性物質として認識されており、曝露した労働者に酸化ストレス、炎症、心血管疾患を引き起こす可能性がある。したがって、包括的なリスク評価、効果的な換気、個人保護具、および作業員訓練を通じて、これらの人工ナノ粒子または偶発的なナノ粒子への作業員の暴露を評価、監視、管理することが不可欠である。持続可能な開発におけるナノテクノロジーと先端材料の利点を実現しながら労働者を保護するためには、予防的な労働安全衛生の枠組みを統合することが重要である。



事例発表 ① 11:35～11:55



**Tsubakimoto Automotive (Thailand)
Co., Ltd.**

(本社：(株)椿本チエイン)

「TATの5つの安全管理活動」

安全環境課長
Ms. Nongnuch Pangvapee

我が社は安全衛生環境法に基づき社長以下、社員全員が働きやすい環境、安全な職場づくりに努めている。安全第一（Safety first）という会社の安全文化に基いた安全活動について発表する。

- 1.社員全員参加の危険予知訓練やヒヤリハット、5S等の安全活動
- 2.ルール遵守と安全作業の手順書作成
- 3.安全教育活動
- 4.危険をなくす為の現場安全確認活動（Safety patrol）
- 5.危険個所の可視化活動

----- 昼食休憩 -----

(12:00～13:00)



事例発表 ② 13:00～13:20



Canon Hi-Tech (Thailand) Ltd.
(本社：キャノン(株))

「労災撲滅の取組み」

人事部労働安全衛生課 課長
Ms. Sunan Panongwang

キャノンハイテクタイランドでは、安全シミュレーション、リスクアセスメント、従業員の気づきやヒヤリハット経験を元にした安全機能の強化など、さまざまな安全活動を実施し、全従業員がこれらの活動に協力し災害撲滅の目標達成を目指している。



事例発表 ③ 13:25～13:45



Roland Digital Group (Thailand) Ltd.
(本社：ローランド ディー.ジー.(株))

「Roland Digital Group (Thailand) Ltd. の安全活動の軌跡と今後について」

President
江間 祐暁 氏

Roland Digital Group (Thailand) では、2012年の工場本稼働以来、安全面を第一優先して会社運営を行ってきた。また、働きやすい環境をつくるため、従業員の意見を取り入れ、衛生面やファシリティ改善にも配慮してきた。今回の発表ではこれまで行ってきた活動・目標達成までの軌跡・今現在の活動・この先の将来目指すべき姿などを事例を含めて紹介する。



特別発表① 13:50～14:10

「タイ日系企業における「ビジネスと人権」の実現に向けて」

厚生労働省 大臣官房 国際労働交渉官 奥村 英輝 氏



企業活動における人権尊重への関心が高まっている。また、グローバル・サプライチェーン上における労働者の権利の確保が重要視されている。タイでは、日系企業が多く操業し多様なビジネス活動を展開しているが、これに当たり、人権尊重の取組を進めていくことが重要である。この人権の中には、本大会のテーマでもある労働者の安全と健康の確保が含まれているが、こうした「ビジネスと人権」について関係者の理解が進むよう、今回説明したい。



事例発表 ④ 14:15～14:35



Thai Tohken Thermo Co.,Ltd.

(本社：(株)東研サーモテック)

「タイ現地法人によるゼロ災運動」

品質保証部長 赤松 龍磨 氏

2014年から本社でスタートしたゼロ災運動をタイ現地法人では2018年から取り組み始めた。タイ人と日本人が切磋琢磨し進めた現場実践型KYT活動の取り組みを以下の内容により、発表する。

- 1.タイ人と日本人合同の社内ゼロ災研修
- 2.タイ語でのボードKYT開始
- 3.現地社内KYT大会
- 4.中災防KYTトレーナー研修に日本人出向者全員受講
- 5.コロナ禍におけるゼロ災運動
- 6.タイ人によるKYT実演



特別発表② 14:40～15:00

「働く人々のウェルビーイングの向上のために：日本の経験」

産業医科大学

産業生態科学研究所産業精神保健学教授 江口 尚 氏

日本企業の海外展開が急速に進む中、進出先においては現地の文化や風土を理解したうえで、日本人スタッフと現地スタッフとの連携を図ることが不可欠である。さらに、現地化の推進も重要であるが、その過程で両者の間にトラブルが生じるケースも増えている。本講演では、日本において“失われた30年”を経て関心が高まりつつある「ウェルビーイング経営」に注目し、その理念を日系企業がタイにおいてどのように活かせるのかについて考察する。



事例発表 ⑤ 15:50～16:10



Electro Ceramics (Thailand) Co., Ltd.

(本社：日本カーバイド(株))

「機械安全チェックについて」

安全担当者(Safety Officer)
Ms Maythinee Kanthanet

本発表ではElectro Ceramics (Thailand) Co., Ltd.の以下の取り組みを紹介する。

- 機械安全点検の手順
- 機械安全組織および資格
- フォローアップ



特別発表③ 16:15～16:35

「安全・教育に対するウェルビーイングの関わり ー仮設機材をモデルとした実験事例」

長岡技術科学大学大学院システム安全工学専攻
准教授 北條 理恵子氏



SDGs等の世界の潮流の中で、well-beingにも注目が集まっている。Well-beingに関する実践や研究のほとんどは、メンタルヘルスや幸福といった側面に言及している。我々が行った調査・研究では、well-beingが安全や教育、マーケティングといった領域においても、現状把握や改善、対策の評価等に適用の可能性があるとの結果が得られた。本講演ではその概要を報告する。

ネットワーキング交流会(17:00～19:00)

実施会場：SDアベニューホテル Chitlada

日頃の安全衛生上の課題等について安全衛生の専門家や他社の安全担当者等と交流し、ご自身の安全衛生分野のネットワーク構築や自社の安全衛生活動の活性化に役立てて下さい(参加はオプション)。また、本大会に於いて活動事例を発表いただいた事業場11社に対し、安全奨励賞を授与します。



2日目【12月19日(金)】スケジュール及び発表概要



事例発表 ⑥ 8:45～9:05



(株) 大林組

「世界がまだ見ぬボールパークをつくろう～
北海道ボールパークの街づくりと建設～」

常務執行役員 大阪本店建築事業部長
竹中 秀文 氏

世界がまだ見ぬボールパークの建設について、施主、行政、施工者が一体となったプロジェクトの開始から竣工までのストーリーとスタジアム内部のトピックスを紹介する。また、厳冬期でも工事を止めることなく取り組んだ安全管理内容、竣工にたどり着いたプロジェクトの足跡やファイターズ選手の新球場建設に対する熱い思いについて報告する。



基調講演③ 9:10～9:55

「失敗情報をデータベースに集め、危険予知に役立てる」

失敗学会 副会長・事務局長
東京大学環境安全研究センター 特任研究員 飯野 謙次 氏

失敗学会ホームページでは1,000件以上の産業界事故や失敗について情報、分析を集め公開している。過去の事故や災害に学ぶことは失敗に対する感性を高め、その軽減には重要である。そして気を付けようなどといった精神論ではなく、失敗しないための仕組みを考えることにもつながる。この失敗知識データベースは、原因、経過、結果を抽象化して短い言葉で表現している。しかし、これから何かをしようとするとき、実行者は失敗の原因や経過については考えが及ばず、何をするかという意図しかない。失敗学会では過去の事例と今後集積する事例について、実行者の「意図」を紐づけ、意図検索を実現する。これは危険予知活動にも大いに役立つ。



事例発表 ⑦ 10:00～10:20

DAIFUKU

Daifuku (Thailand) Limited.

(本社：(株)ダイフク)

「労働安全衛生および安全管理のマネジメントの向上」

安全管理部 次長 Ms. Anchalee Kongchankit

安全活動を進める中で直面した課題や、それを通じて得られた改善の機会について説明する。主に、目視による重量評価、リスクの写真撮影、安全の日の実施、その他関連する安全衛生活動など、当社が実施している主な活動を紹介する。



特別報告① 10:40～11:10

「タイにおける持続可能な安全文化の構築について
～法改正、リスクアセスメント、ゼロ災に向けた協力を通して～」

SHAWPAT(タイ労働安全衛生促進協会)
Dr. Chaityuth Chavalitnithikul

本発表では、Safety Thailand政策と労働安全衛生環境法B.E.2554の下、2024年リスクアセスメント規制を取り入れた強固な安全文化構築へのアプローチを探る。日本やJISHAによるKYT研修やゼロ災キャンペーンの継続的な支援により、タイでは現在、省令告示に規定された職場のリスクアセスメントを実施することが雇用主に義務付けられてる。このような法的措置は、国際的な協力とともに、持続可能で人間中心の安全文化に向けた真の進歩を促している。



特別報告② 11:15～11:30

「ゼロ災運動の概要と海外拠点での導入のために」

中央労働災害防止協会 教育ゼロ災推進部
ゼロ災推進課係長 杉山 大地



労働災害により「誰一人ケガをさせない、病気にさせない」という人間尊重の理念を掲げてゼロ災運動は1973年にスタートし、今日まで受け継がれてきた。ゼロ災運動の概要とその理念の実現のために実践されてきたKYT等の手法を紹介する。また、海外拠点でも導入しやすい手法として指差し呼称を「いつ、どこで、どのように」行えばよいか解説を交えて伝える。



特別報告③ 11:30～11:45

「ストレスチェック制度の背景と事業場外資源
としての中災防の活用報告」

中央労働災害防止協会 関東安全衛生サービスセンター
事務係長 亀井 隆史

日本では過労死・過労自殺が深刻な社会問題となっている。高度経済成長期からの長時間労働の常態化、バブル崩壊後の労働環境の悪化により、職場における精神的負荷が増大した。この状況を受け、2015年にストレスチェック制度が開始された。同制度は①労働者の心の不調の早期発見、②働きやすい職場環境づくり、③メンタルヘルス不調の予防を目的とし、常時雇用する労働者が50人以上の事業場で年1回の実施が義務付けられている。本報告では、中央労働災害防止協会が事業場に対して実施したストレスチェック支援の活用事例について報告する。



事例発表 ⑧ 11:50～12:10 (オンデマンド配信)



(一社)日本自動車工業会
安全衛生分科会

「海外拠点との安全衛生の連携強化」

スズキ(株) 人事部 安全衛生課 課長
渡辺 友一郎 氏

当研究会は、西日本を主な生産拠点とする自動車メーカー7社で構成し、自動車産業における安全衛生管理水準の向上に貢献すべく共同研究に取り組んでいる。現在、私たちが働く自動車業界は各社それぞれが世界に進出し、グローバル化が進んでおり、海外拠点の安全衛生管理の重要性がますます高まってきている。本発表では海外拠点との連携強化、レベルアップするための各社の取り組みについて報告する。

----- 昼食休憩 -----

(12:10～13:15)



一般報告 13:15～13:35

日本だけでなく、世界へ広まる内田クレペリン検査 (クレペリン検査の事例(BTS))

(株)日本・精神技術研究所 代表取締役社長 内田 桃人 氏



日本の鉄道は安全性と正確性で世界的に知られているが、それは事故を起こしやすい特性を持つ人を見極め、適切に配置する取り組みに支えられている。内田クレペリン検査はその代表例で、国土交通省令により実施が義務付けられている。この検査を2006年に導入し、約20年にわたり活用し続けてきたのが、タイ初の都市鉄道であるBTSで、本日はBTSのHRマネージャーをお招きし、AI社会においても人間の判断が不可欠な領域で、どのように人材を育成・配置しているのか、現状を伺う。



事例発表 ⑨ 13:40～14:00



Teijin Cord (Thailand) Co., Ltd.
(本社：帝人フロンティア(株))

持続可能な安全・環境・労働衛生文化について

統括部長、環境労働安全部長
Mr.Noppadol Bumroongkiat

Teijin Cord (Thailand) Co., Ltd.の持続可能な安全・環境・労働衛生文化の創造に向けた活動は以下の3本柱で構成されています。

1. 5S 24時間活動
2. ヒヤリハット・危険予知 (KY)
3. 24/7安全 (常時安全)



事例発表 ⑩ 14:05～14:25



Thai Nippon Steel Engineering & Construction
Corporation Ltd.

(本社：日鉄エンジニアリング(株))

「職場におけるメンタルヘルスとウェルビーイングの重要性について」

HSE部門 統括部長
Mr.Jeerawat Charoenpol

メンタルヘルスとウェルビーイングは、生産性が高く、ポジティブかつ持続可能な職場環境にとって極めて重要である。本発表では、わが社が実践する職場でのメンタル・ウェルビーイングを促進するための主な活動をご紹介します。



特別発表④ 14:30～14:50

「倉庫作業におけるエルゴノミクス」

タマサート大学 公衆衛生学部 講師
Dr.Teeraphun Kaewdok



倉庫作業は、職業病、特に筋骨格系障害（MSD）の危険な仕事の一つである。本研究は、サムットプラカン州の倉庫労働者におけるエルゴノミクス曝露のMSDsリスクを評価することを目的とした。本研究は2つのフェーズから構成され、第1段階は危険の特定と人間工学的リスク評価のための横断的記述研究、第2段階は人間工学的改善、試験、評価段階である。本発表ではこれらの評価によって得られた結果などをご紹介します。

----- コーヒーブレイク -----
(14:55～15:35)

パネルディスカッション (15:35～16:35)

ビジネスと人権の観点から見たウェルビーイングの向上を目指す安全衛生分野における日タイの連携協力と未来について参加者と共に考えます。

(ファシリテーター)

厚生労働省 大臣官房 国際労働交渉官 奥村 英輝 氏



(パネリスト)

国際労働機関（ILO）専門家 Mr.Phattaraset Ardchawuthikulawong



産業医科大学 産業生態科学研究所産業精神保健学 教授 江口 尚 氏



タマサート大学 公衆衛生学部 准教授 Dr.Chalermchai Chaikittiporn



14. 参加者数内訳

参加者数の内訳は下記のとおり。

なお、一般参加者（現地参加）の国籍の割合は、日本人 68 人（42.8%）、タイ人 88 人（55.3%）、その他 3 人（1.9%）となる。

		現地参加	オンライン参加
一般参加者	日本側（中災防） ネットワーク参加	20	20
	日本側（中災防） ネットワーク不参加	20	—
	タイ側 (SHAWPAT)	119	48
来賓		15	—
その他の参加者	発表者	19	—
	展示業者	60	—
	タイ人学生	18	—
	サポーター (発表者補助)	16	—
	報道・プレス	1	—
関係者	中災防 スタッフ	10	—
	SHAWPAT 幹部	10	—
	SHAWPAT スタッフ	9	—
参加者合計		317	68

11. 広報媒体(制作物)

① ニュースリリース(R6.5.9、R6.8.22、R7.5.20)

Press Release

JISHA 中災防

報道関係者各位

2024年5月9日
特別民間法人 中央労働災害防止協会

中災防は、タイにおける日系企業を対象に
安全大会（“Thai - Japan Work Safety Days”）を
2025年度バンコクで開催します

中央労働災害防止協会（中災防：会長 十倉雅和（日本経済団体連合会会長））は、タイにおける日系企業の安全衛生活動の支援を主な目的に、タイの関係機関（ILO バンコク事務所、タイ労働安全衛生促進協会（SHAHPAT）等）の協力のもと、首都バンコクにおいて2日間の安全大会（“Thai-Japan Work Safety Days”）を2025年度に開催することを決定しました。

タイには約 6,000 社の日系企業があるとされ、自動車や電気電子産業等に代表される、広範なサプライチェーンを構築しています。しかしながら、安全衛生管理体制が十分ではない、労働災害が減らない、安全ルールが守られない等の課題を持つ事業場もあります。そのような中、中災防は本大会を通じて、作業員の安全衛生意識の向上や安全衛生担当者間のネットワークの構築、日本企業へのグローバルな情報の流通を目的とし、タイにおける日系企業の安全衛生管理体制の充実と労働災害の防止を支援します。

本大会では、日系企業で働くタイ人の安全衛生担当者や日本人の工場長等の管理者を主な対象に、日本語とタイ語の逐次通訳による日・タイの有識者による基調講演やパネルディスカッション、企業からの事例発表、参加者によるグループワークや保護具等の展示コーナーを設ける予定です。

労働安全衛生分野における日・タイ両国のこれまでの経験や考え方を尊重しつつ、お互いに良いものは取り入れ、改善すべきはお互いの経験から学ぶといった「知恵の貸し借り」の場となることを目指します。また本大会に合わせて、日系企業に向けた安全衛生に関するメンバースhip制度の創設、中災防機関誌のタイ語版の発行、タイ語による安全衛生ガスターの頒布等も計画しています。

開催時期や開催プログラム等の概要については、本年夏頃を目途に改めて中災防のウェブサイト等で告知する予定です。

※この資料は、厚生労働部、厚生労働省労働政策クラブ、厚生日比谷クラブ、統研研究会、自動車産業部会に配布しています。

【担当】 技術支援部長 樋口 政純

【照会先】 総務部 広報課長 高須 幸治 電話 03-3452-6542 E-mail koho@jisha.or.jp

Press Release

JISHA 中災防

報道関係者各位

2024年8月22日
特別民間法人 中央労働災害防止協会

タイにおける日系企業を対象とした安全大会
「Thailand-Japan Work Safety Days」
2025年12月18日・19日 バンコクで開催決定

中央労働災害防止協会（中災防：会長 十倉雅和（日本経済団体連合会会長））は、タイにおける日系企業の安全衛生活動の支援を主な目的に、タイの関係機関（ILO バンコク事務所、タイ労働安全衛生促進協会（SHAHPAT）等）の協力のもと、首都バンコクで開催する2日間の安全大会「Thailand-Japan Work Safety Days」について、今後、開催日程と会場を次のとおり決定しました。

日程：2025（令和7）年12月18日（木）及び19日（金）の2日間
会場：SD Avenue Hotel（エスディー・アベニュー・ホテル）
（住所：94 Borommarat Chachonnan Road, Bang Bamru, Bang Phlat, Bangkok）
（※バンコク中心部より車で40分程度の場所に位置する。）

本大会では、日系企業で働くタイ人の安全衛生担当者や日本人の工場長等の管理者250名程度を募集し、日本語とタイ語の同時通訳等による日・タイの有識者による基調講演やパネルディスカッション、企業からの事例発表、参加者によるグループワーク等を実施する予定です。参加費は有料となります。

本大会には保護具等の展示会場が併設され、今後、保護具メーカー等から20小間程度の出展を募集する予定です。こちらは入場無料です。また、日系企業に向けたメンバー制の中災防機関誌のサブスクリプション、タイ語による安全衛生に関する小冊子やポスターの販売も計画しています。

また今後、本大会は2年に1回タイで開催し、日系企業以外の現地ローカル企業からの参加要望も多くあるため、現地ローカル企業の参加についても検討を進める予定です。

開催プログラムの概要等については、本年11月頃を目途に改めて中災防のウェブサイト等で告知する予定です。

※この資料は、厚生労働部、厚生労働省労働政策クラブ、厚生日比谷クラブ、統研研究会、自動車産業部会に配布しています。

【担当】 技術支援部長 小宮山 弘樹

【照会先】 総務部 広報課長 岩田 良子 電話 03-3452-6542 E-mail koho@jisha.or.jp

Press Release

JISHA 中災防

報道関係者各位

2025年5月20日
特別民間法人 中央労働災害防止協会

第1回 タイ日系企業安全大会 参加受付開始
基調講演者が決定しました！
～共に学び、共に築こう、日・タイ両国の安全衛生の連携とシナジー～

中央労働災害防止協会（中災防：会長 十倉雅和（日本経済団体連合会会長））は、タイの日系企業の安全衛生活動の活性化の支援を主な目的に、在タイ日本大使館の後援のもと、本年12月18日（木）及び19日（金）の2日間、首都バンコクにおいて安全大会（“Thailand-Japan Work Safety Days”）をハイブリッド方式で開催します。

本大会では日本語とタイ語の同時通訳等により、日・タイの有識者による基調講演やパネルディスカッション、企業からの事例発表等を実施します。この度、日本側の基調講演者が決定し、参加申込の受付を開始いたしました。

（日本側基調講演者）（※タイ側の基調講演者は今後決定予定）



三宅 博巳(みやけ ひろし)氏
横浜国立大学 総合学術高等研究院
上席特別教授 / 学長特任補佐 / 名誉教授



加藤 健次(かとう けんじ)氏
矢野学園 副校長・事務局長
東京大学環境安全研究センター 特任研究員

大 会 概 要

開催日程：2025（令和7）年12月18日（木）及び19日（金）の2日間
開催会場：SD Avenue Hotel（エスディー・アベニュー・ホテル）
（住所：94 Borommarat Chachonnan Road, Bang Bamru, Bang Phlat, Bangkok）
参加対象者：タイにおける日系企業の安全衛生担当者や工場長等の管理者等
250名程度（※日本企業の海外統括部門の担当者等向けにオンライン参加も可能）
開催言語：日本語とタイ語による同時通訳付き
同時開催：日本国内のメーカー17社による安全衛生保護具等の展示会（入場無料）
協力機関：ILO バンコク事務所、タイ労働安全衛生促進協会（SHAHPAT）等

※その他のプログラムについては決定次第、今後のプレスリリースや中災防のウェブサイト等でお知らせします。
<https://www.jisha.or.jp/international/conference/thailand-japan-work-safety-days.html>

中災防 タイ大会 で 検 索

参加申込について

○日本国内からの申込みは中災防へお申込みください。
申込方法：下記 QR コードを読み取るか、下記ページよりお申込みください。



<https://forms.office.com/r/WG2ug22qfl?origin=prLink>

定員 250 名となっておりますので、お早目にお申し込みください。

※タイ国内からの申込みについては、今後、SHAHPAT のホームページで募集開始予定です。

参加費： 14,000 円（税込）（タイでの現地参加の場合）
7,000 円（税込）（日本からのオンライン参加の場合）

同時開催として、あらゆる職場の安全・健康・快適にかかわる機械・器具や技術、情報、ノウハウを提供する安全衛生分野で展示会「(Thailand-Japan OSH Exhibition)」(入場無料)を初めてタイ・バンコクで開催いたします。

また会場では日系企業に向けたタイ語による安全衛生に関する小冊子やポスター等の頒布も予定しています。

小冊子「タイ国産 産業用呼吸器で安全職場」⇒


安全衛生担当者同士のネットワークの構築、また近年、国際的に要請が高まる「ビジネスと人権」等、グローバルな安全衛生に関する情報の流通を行いたく、日系企業の安全衛生担当者や工場長等の管理者、日本の海外統括部門の担当者など、多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

※この資料は、厚生労働部、厚生労働省労働政策クラブ、厚生日比谷クラブ、統研研究会、自動車産業部会に配布しています。

連絡先
特別民間法人 中央労働災害防止協会
【担当】 技術支援部長 小宮山 弘樹
【照会先】 総務部 広報課長 岩田 良子 電話 03-3452-6449 E-mail koho@jisha.or.jp

14

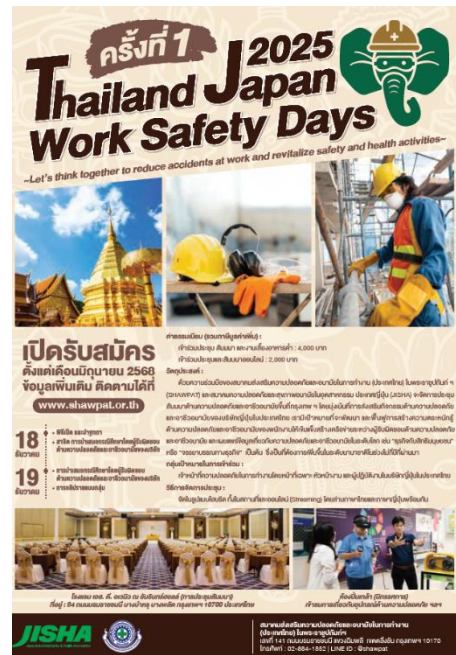
② ポスター(日本語)



③ ウェブサイト(日本語)



④ リーフレット(日本語・タイ語)



⑤ プログラム(日本語・タイ語)



12. アンケート結果

下記のとおり、参加者に対しオンラインアンケートを実施した。

・回答数

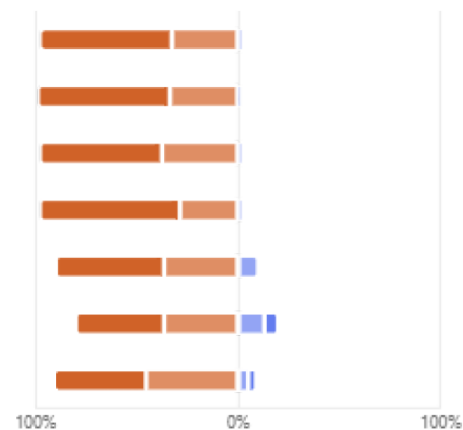
101 件(回答率 35%)(関係者除く)

・アンケート結果(一部)

16. 参考になった発表について、大会プログラム集を参考にして選択してください。 เกี่ยวกับการบรรยายที่ท่านคิดว่าเป็นประโยชน์ โปรดดูรายละเอียดของโปรแกรมและเลือกความคิดเห็นของคุณ

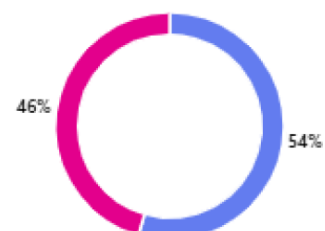
- 参考になった มีประโยชน์มาก
- มา اما 参考になった ค่อนข้างมีประโยชน์
- 参考にならなかった ไม่ค่อยมีประโยชน์
- 参考にならなかった ไม่มีประโยชน์

- ① 基調講演 การนำเสนอพิเศษ
- ② 特別発表 การบรรยายพิเศษ
- ③ 特別報告 รายงานพิเศษ
- ④ 事例発表 Case Presentation
- ⑤ パネルディスカッション การอภิปรายแบบคณะ
- ⑥ ネットワーク交流会 (参加者のみ) Networking งานเลี้ยง เชื่อมสัมพันธ์
- ⑦ 保護具等展示会 นิทรรศการอุปกรณ์ป้องกันที่เกี่ยวข้องกับความปลอดภัยและสุขภาพในการทำงาน



18. 次回も同様の大会・展示会が開催されたら参加したいですか? หากมีการจัดงานประชุมสัมมนา/นิทรรศการลักษณะนี้ในครั้งหน้า ท่านต้องการเข้าร่วมหรือไม่

- 参加する เข้าร่วม 55
- 参加を検討する พิจารณาเข้าร่วม 46
- 参加しない ไม่เข้าร่วม 0



14. 実施風景



＜参考資料＞

SHAWPAT とは

タイ労働安全衛生促進協会（SHAWPAT）は、1986 年にタイで最初の国の安全週間がスタートしたが、その組織委員会が、さらに毎年、全国安全週間を実施するために労働安全衛生協会の樹立をタイ労働省が勧告し、同年に設立された民間団体です。主な業務は、安全衛生教育、作業環境測定、安全衛生診断、安全衛生用品の販売、インターネットによる情報提供等です。タイ日系企業安全衛生大会の開催にあたり、中災防と SHAWPAT は一致協力して本大会の企画・運營業務を行いました。



中災防と SHAWPAT による大会開催の調印式にて（令和 7 年 6 月）